

優れた、より良い福祉コミュニティをめざして

まほろば

ふれあいネットワーク

社協広報

第 25 号

住民主体の地域福祉活動の展開



「いちいの里名産の“じゃがいも”。ほら大きいでしょう。」

ことしの5月、いちいの里駐車場隣の庭内に設けられたミニ農園。作付けされたいろいろなお野菜は、自然の恵を得て立派にみのりました。地主さんは、生きがい活動の参加者の皆さんです。農作業に慣れないスタッフを指導して、いま、収穫の作業が始まっています。この日は、美味しそうな“じゃがいも”。「農具!?!」はちょっとおもちゃっぽいけど、「おイモ」は本物です。

写真／ぼぼねっと・生きがい活動支援通所事業から

住民主体の地域福祉活動の展開

従来、社会福祉協議会にあっては、誰もが安心して暮らすことのできる福祉の地域づくりのために、諸活動・諸事業が展開されてまいりました。しかしながら、新しい世紀を迎え社会が大きく変化しようとしている昨今、地域社会の基盤の再構築をはかっていくことが社会的課題とされ、そのための重要課題の一つとして、地域福祉への更なる取り組みがあげられてきています。社会福祉協議会に対しても、あらためて住民主体の地域福祉活動を展開する方策をしっかりと打ち出し、諸活動・諸事業に取り組み、住民主体の地域の基盤づくりをする役割が、これまでに上にもとめられています。

山形村社会福祉協議会では、これらの課題に取り組んでいくため、この度、地域の皆さんから参加をいただき、地域福祉推進委員会を設置することと致しました。同委員会を中軸として、ボランティアセンターの機構の見直し、地域生活支援ネットワークの構築などの課題に取り組んでいくこととしています。

その中でも、山形村保健福祉センターいちいの里内に、その拠点を移した山形村ボランティアセンターの活動の一層の活性化を図るため、関係者において学習会を開催し、同ボランティアセンターの機構の見直しの作業等を開始しています。その概要は、同センター内に情報提供・広報部会、調査研究・企画部会、コーディネート部会、活動育成部会等を置き、センターのコーディネーション機能の一層の充実を図って、地域において活躍する個人・グループ・団体等のボランティア活動をサポートして行こうというものであります。

これらの取り組みは、より良い福祉コミュニティの創造のために、住民主体の活動として将来にわたって展開されて行くことが期待されます。

日本赤十字社／社資収納運動の実施結果報告

連絡班名	件数	社資	連絡班名	件数	社資	連絡班名	件数	社資
豆沢南	17	13,000	日 向	29	29,000	青葉台	7	7,000
豆沢北	18	18,000	堂村上	9	8,500	本郷東	22	11,000
青木沢南	11	11,000	堂村下	13	13,000	南 原	3	1,500
青木沢中	10	7,500	寺林・小坂東	15	7,500	西 原	7	3,500
青木沢北	23	16,500	清 水	12	8,500	四ツ谷中	7	4,000
中耕地西	16	16,000	本殿上	10	10,000	上竹田小計	419	354,000
中耕地東	21	21,000	本殿下	16	16,000	美の里ヶ丘	14	8,500
久 保	18	12,000	東 殿	18	10,000	唐沢上	17	1,700
堤 南	39	20,500	上北沖	18	18,000	神 明	34	26,500
堤 北	27	13,500	中北沖	25	25,000	荒 川	25	14,500
淀の内	14	14,000	下北沖	22	20,500	上手村	27	27,000
上大池小計	214	163,000	上中原	25	25,000	西 下	19	19,000
上手西	20	20,000	中原町	26	26,000	北 村	18	18,000
上手東	16	16,000	新 町	23	22,500	南 中	31	31,000
野 際	25	25,000	小坂台	24	13,500	北 中	19	19,000
中大池中村	31	31,000	下中原	22	11,000	南 堀	25	25,000
中大池下村	27	27,000	小坂小計	348	296,000	北 堀	17	10,500
下村東	17	17,000	唐沢下	28	23,000	竹 原	32	24,500
野際東	8	12,000	四ツ谷上	35	35,000	原 町	29	28,000
中大池小計	152	148,000	四ツ谷下	39	30,500	北竹原	3	4,000
仲 町	22	22,000	原村上	22	22,000	竹田原	27	27,000
橋爪西	12	12,000	原村東	18	18,000	三夜塚	32	16,000
橋爪東	45	27,500	宮 村	26	26,000	南竹原	25	12,500
下大池下村	18	18,000	殿 村	28	19,500	新 星	15	15,000
中央通	40	40,000	中耕地	27	27,000	若 葉	12	12,000
城ヶ沢	22	20,000	上竹田中村	34	34,000	野尻東	16	8,000
西 沖	22	11,000	御判形	29	29,000	野尻西	20	20,000
下大池小計	181	150,500	下本郷	48	24,000	清水高原	3	2,500
山 口	23	23,000	新 和	23	23,000	梨の木	15	7,500
大 日	18	9,000	四ツ谷西	16	16,000	下竹田小計	475	393,000

今年の5月に実施しました日本赤十字社の社資収納運動の実施結果を報告します。新規に社員として加入いただいた24名の方、昨年から引き続き社員として協力いただいた方、寄付金の協力をいただいた方それぞれのあたたかい協賛に対し、あらためて感謝申し上げます。

この社資は、日本赤十字社長野県支部に全額送金させていただきました。各市町村での赤十字活動・国際活動・各種講習普及・赤十字奉仕団活動・災害救援などに使われます。

ご協力ありがとうございました。

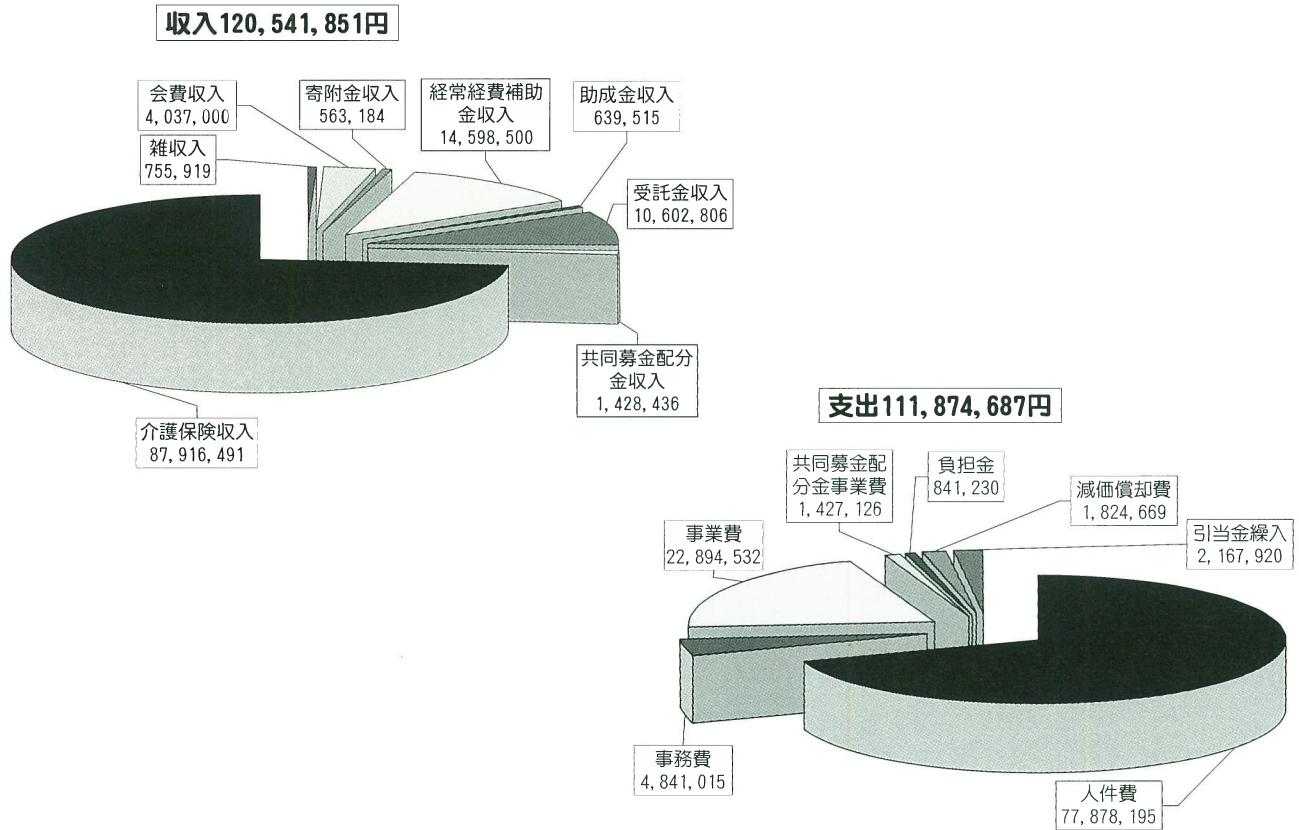
社費 1,218,000円

寄付 286,500円

合計(社資) 1,504,500円

平成13年度

山形村社会福祉協議会一般会計決算



社協役員・評議員紹介

平成14年8月1日現在

理事

会長	齊藤 清	(村長)
副会長	清澤實視	(助役)
副会長	上條啓一	(区長会長)
副会長	逢澤佳丸	(民生児童委員会長)
常務理事	福澤倫治	(保健福祉課長)
理事	原 宏見	(村議会議長)
	高山秀子	(村議会福祉経済常任委員)
	村上加久男	(教育委員長)
	宮寄一雄	(公民館長)
	上條文夫	(上大池区長)
	加納孝雄	(小 坂区長)
	大池四郎	(下大池区長)
	塩原勝正	(上竹田区長)
	村上春彦	(下竹田区長)
	中川たき江	(ボランティア連絡協議会会長)
	上條清子	(ボランティア連絡協議会副会長)
監事	中川純治	
	竹野入貞夫	

評議員

本木睦啓	(村議会副議長)
唐沢完治	(村議会福祉経済常任委員)
住吉輝紀	(同上)
竹野ふみ江	(同上)
百瀬 脩	(同上)
笹川武清	(民生児童委員)
熊谷久子	(同上)
上條治子	(同上)
小林嘉宣	(同上)
宮本美鶴	(同上)
籠田豊里	(同上)
住吉すみ	(同上)
前田愛子	(同上)
森井英子	(同上)
神通川長子	(同上)
竹野園麿	(同上)
宮沢 勲	(同上)
土田朋子	(同上)
横水美佐子	(同上)
松岡 昇	(同上)

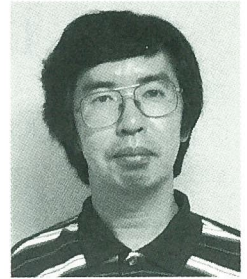
堤 洋子	(主任児童委員)
上條恵津子	(同上)
上條 勝	(教育長)
大口 洵	(山形小学校長)
桐原邦夫	(鉢盛中学校長)
籠田次郎	(子ども会育成会会長)
本庄利昭	(山形村保育園長)
笹野初雄	(特養 ピアやまがた所長)
中村健一郎	(上大池区長代理)
塩原桂也	(中大池区長代理)
中川直桂	(小 坂区長代理)
川上祐司	(下大池区長代理)
小林八郎	(上竹田区長代理)
百瀬嘉洋	(下竹田区長代理)
宮沢秀美	(J A松本ハイランド山形支所担当理事)
越 英吉	(山形村商工会長)
大池五八	(老人クラブ連合会長)
籠田 仁	(身体障害者福祉協会会長)
小林啓長	(山形村知的障害者育成会会長)
鈴木利喜	(遺族会会長)

※敬称は略させていただきます。

福祉とは何だろう！

松本大学総合経営学部・助教授

白 戸 洋 （山形村社会福祉協議会／地域福祉推進委員）



短大の学生は最初の1年間学生生活を思いっきりエンジョイするものが多いが、2年生の春休みになるとふと自分の将来に不安を抱いて悩み出すものである。ゼミの学生のKさんが私の研究室にやってきたのもそのような理由からで、相談の結果、彼女が関心を持っている高齢者と接することができる松本市内のグループホームに定期的に通うこととなった。

Kさんはちょっと前の言葉で言えば「ギャル」である。まるで夏の浜辺にいるような格好で学校にやってくる彼女に「お年寄りが目をまわさないような格好で」「遅刻はするな」などと、何から何まで心配で迷惑をかけやしないかと冷や冷やしていたのが実のところである。さて地域で活動する学生には毎週その感想などをまとめた報告レポートを書いてもらっている。最初は緊張しているのか、「こんなことがあった」「こんな話を聞いた」などと差し障りのない出来事や感想を書いていた彼女のレポートに変化があったのはグループホームに通いだして3週間目ぐらいのことである。「ホームのAさんはあたしが挨拶しても返事しない。性格がよくない」「今日はみんなで歌を歌ったのにAさんは一人で無視していた」などと一人のお年寄りが気になる様子である。ちょうどグループホームにも少しなれて、一緒に散歩をする仲良しのおじいちゃんができて、遠慮してはいていたズボンがミニスカートに戻ってしまった頃である。彼女のレポートは毎週のように、しつこくAさんの様子を描いており、表現も「むかつく」から「超むかつく」「超々むかつく」と次第に過激になっていく。ところがある日彼女はこともあろうに「Aさんを変える」という宣言をしてしまった。それからは毎回、朝はAさんが返事をするまで後をついてまわって、何度も「おはようございます」と言い続け、食事の時もAさんの隣で何かと話しかけるという具合で、無視されても無視されてもAさんの側を離れなかった。レポートを読む私は気が気でなかったが、ある日レポートの真ん中に大きな字で「勝った！！」とだけ記してあった。とうとうAさんが先に「おはよう」と言ってくれたというのである。

恐ろしいほどの執念ではあるが、グループホームに迷惑をかけてしまったのではないかと私はある日謝りに伺った。ところが「うちにも専門的な実習などで多くの学生さんや研修生が来ますが、そういう時にほとんどの人がAさんを『問題行動のある高齢者』としてしか捉えず、どう対処するかばかり考えてしまいます。確かにKさんは福祉のことは何も知らないかもしれないけれど、一人の人間としてまっすぐ向き合ってくれたのは彼女だけです」と逆にスタッフの方から誉められてしまった。何の資格も持たず、専門的な知識も持たないKさんが、しかし人として向き合うという姿勢を持っていたことは、もう一度福祉とは何なのかということを考える機会となった。

◇編集後記◇

私が10年ほど前この村に越してきた頃から考えてみると、徐々に家が増え大型店舗が進出し便利にはなったが、その反面人と人とのつき合いが希薄になったように思えてならない。私が幼少の頃田舎にはおせっかいなおばちゃんが出て、自分の家の子もよその子も本気で叱りつけるおじさんがいた。当時はうっとうしい存在だったのに、今思うと優しい気持ちになるのは何故だろう。環境が変わっても人の想いは変わらないものであってほしい。心の環境は私たち一人一人の想いにより形成される。私たちはいったいどんな山形村に住みたいのか？そんなことをあらためて問い直してみる必要はないか。

編集人／社協-N.

まほろば (社協広報／第25号) 平成14年9月27日発行

●発行所 社会福祉法人 **山形村社会福祉協議会** (山形村保健福祉センターいちいの里内)

〒390-1301 長野県東筑摩郡山形村 4520 番地の 1 TEL 0263 (97) 2102 FAX 0263 (97) 2101

●印刷所 日本ハイコム株式会社